IR

Investor Relations

News 2015

第52期　中間事業のご報告

平成27年4月1日～平成27年9月30日

Contents

- トップメッセージ
- 財務ハイライト
- セグメント別事業概況
- 会社概要

サンコーテクノ株式会社

JPX
東証上場
証券コード：3435

トップメッセージ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに平成28年3月期中間決算（平成27年4月１日～平成27年9月30日）の業績をご報告申し上げるとともに、今後の取組みについてご説明いたします。

新市場の創出に向け、開発力・営業力を強化。

着実に歩みを進めて、次の成長ステージへ。

代表取締役社長
洞下英人

Q1 中間期（平成28年3月期）の業績についてお聞かせください。

A1 当社グループの上半期実績は、売上高が79億26百万円（前年同四半期比6.0％減）、経常利益は5億13百万円（同25.5％減）となりました。上半期の建設市場は、建設現場での人手不足とそれに伴う着工の遅れが影響し、当社取扱い製品において商流の停滞感が生じました。また、太陽光発電市場が低調に推移したことや、消費増税に伴う駆込み需要の反動減等の影響もありました。特に当社の主力製品である「あと施工アンカー」は、主に建築分野で使用されておりますが、ここ数年太陽光発電市場向けの需要が増えておりました。主にマイナス要因となったのは、太陽光発電パネルの設置に使用されるアンカーの販売減少です。前年同期に活況だった太陽光発電市況の反動減があったと判断しておりますが、こうした市場環境が当社グループの業績にも影響し、前年同期に比べて各事業の収益性は低下いたしました。

Q2 通期の見通しについてお聞かせください。

A2 建設現場の人手不足による停滞感が懸念されますが、現場で使われる工具類の売上は変わらず好調なことから、市況は、「踊り場」の状態にあると捉えております。下半期は、

経営理念

奉仕は、真価の追求なり
啓発は、未来の追求なり
協調は、繁栄の追求なり

社　是

創り、活かし、満たす
「人のお役に立つために、
創造提案型企業をめざす」

社　訓

感性と実践力を磨き、
健康で豊かな環境づくりに
貢献します

心の経営とは

私たちの会社が、最も大切にしていること。
それは「心の経営」です。
心の経営とは、「理想は高く 頭は低く 実践は足下から」を基本姿勢とし、その実践を「挨拶と清掃」に求めています。
こうした日々の実践を通して
活気あふれる職場づくりを
目指しております。

「社団法人倫理研究所」の
ライセンス認定企業プログラム
『倫理17000』の第1号に認定

特に大きく落ち込むことはないと考えておりますが、上昇局面へシフトする時期についての判断は難しいところです。当社では、いわば端境期にあるこの時期を「種まきの機会」と位置付け、新たな市場の創出に向け、開発力と営業力の強化に取り組んでおります。

製品開発においては、ファスニング事業でインフラ・土木分野向けにメタルセーフアンカー等の新製品を開発いたしました。また、機能材事業では、株式会社タニタ様と共同開発した熱中症対策製品を販売いたしました。今後も大手ゼネコンや協業メーカーとのコラボレーションを推進し、付加価値の高い製品を市場に創出してまいります。

営業活動においては、川上である工事の設計段階からお客様の業務フローに一貫して関わることで当社製品の導入を促進し、営業機会の拡大を図っております。また、川下である現場の施工段階でも当社製品を採用いただくための活動を行っております。当社のアンカーシステムは、レイアウトの自由度が高く施工がしやすいため、大幅な工程・工期の短縮を図ることができます。

あと施工アンカーは急激に需要が拡大する製品ではありません。構造物の設計から施工、維持・保全と長い過程の中で、お客様と情報交換をしながら使っていただく製品であり、開発から製造・販売、更に施工までを一貫して手掛けているのは、当社の大きな特長です。 あと施工アンカーのトップメーカーとして、開発力と営業力の強化を図ると共に、付加価値の高い製品の創出に努め、通期目標の達成に向け、取り組んでまいります。

中期経営計画の進捗はいかがですか?

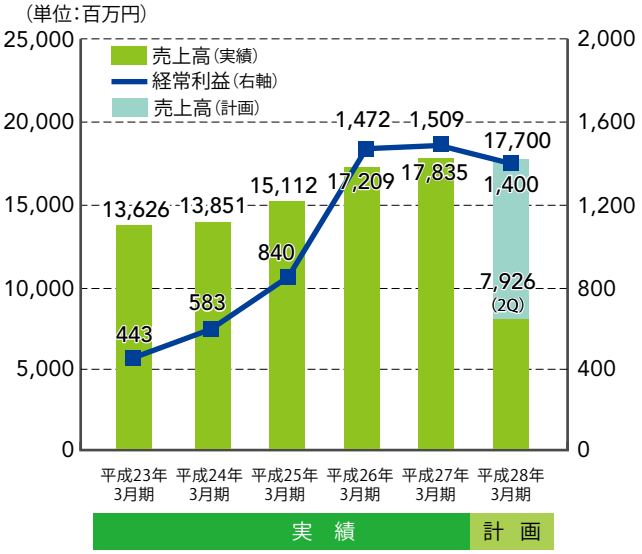
Q3

A3 東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年をターゲットに、売上高成長率5%以上を目標においた中期経営計画に取り組んでおります。2015年はその初年度であり、中期経営計画の最大のポイントである「新たな市場の創出」に注力してまいります。

各種インフラの寿命(老朽化)が社会問題になっている昨今において、あと施工アンカーのトップメーカーとしての使命、「安全・安心」を標榜する会社として、ファスニング事業ではこれまでの建築分野だけではなく、土木分野へ市場拡大を図ると共に、ゼネコンや各種メーカーとタイアップしての工法開発に積極的に挑戦してまいります。また、機能材事業においては、あと施工アンカー以外の新しい商材を発掘し、販売の可能性を探りながら新事業の柱を確立するための活動に注力いたします。更に海外展開では、東南アジア圏での販売推進を本格化させてまいります。

こうした戦略を着実に実現化させ、2020年度までに売上高200億円を突破したいと考えております。あと施工アンカーのマーケット以外に機能材事業のマーケットを加え、年間を通して安定した売上を確保することにより、中期経営計画の達成を目指してまいります。

●実績の推移グラフ



S.T.G VISION 2020

私たちは **独自の締結(ファスニング)システムで、安全・安心を提供する モノづくり集団**を追究します

5つの視点

お客様へ ...	お客様の期待を超える価値創造を実践し、"SANKOブランド=人"を実現します
お取引先様へ ...	共育・共創・共生をキーワードに共鳴し合える関係を構築します
社会へ ...	事業を通じて、安心して暮らせる豊かな環境づくりに貢献します
株主様へ ...	持続的な利益創出と株主還元により企業価値の向上を図ります
社員へ ...	自身の成長とチームの達成感(喜び)を共有できる職場環境を構築します

S.T.G スローガン

グループ一丸となって、人財・品質・実践力を磨き モノづくり企業を究めます

独自の締結(ファスニング)システムとは ...

人と人、人とモノ、モノとモノとを、私たちが有する技術やサービスで、安全と安心の視点から融合し、お客様へシステムとして提供すること

モノづくりとは ...

モノとは商品・サービスなど、ステークホルダーへ提供するあらゆる価値を表し、「モノづくり=当社独自の価値を創造する」取組みを示す

株主の皆さまにメッセージをお願いします。 Q4

A4 当社は、2005年にJASDAQ市場に上場してから10年が経過し、更なる企業成長を目指すべく、2015年5月に東証二部へ市場変更いたしました。市場変更の目的としては、①業界トップメーカーとして認知され、ブランド力を向上させること、②外部審査により経営のレベルチェックを行うこと、③審査を通じて社内に潜む重要課題を抽出し、これに取り組むことにより、強固な経営基盤を創り上げることでした。

当社は、お客様の要望に応え続ける企業であるために、"オールサンコー"の精神で、グループ会社一体となって業務品質（価値）の向上を図ってまいりますので、長期的な視野において当社グループの成長を見守っていただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

IR担当者より

●「株主様アンケート」の結果を受けて

本誌 I R News 第51期事業のご報告におきまして、「株主様アンケート」にご協力いただきました株主の皆様、誠にありがとうございました。

アンケート結果を4ページに掲載させていただいておりますので、ご参照ください。なお、今回ご回答いただいたご意見欄にアンケート回答者への粗品進呈の廃止に関して、「残念」とのご意見が多数寄せられました。この度の株主優待制度の導入により、粗品の進呈を廃止いたしました由、改めてご了承の程よろしくお願いいたします。

今後とも、株主の皆様からのご意見をお聞かせいただきながら、I R 活動の更なる充実に向け取り組んでまいりたいと存じますので、引き続きまして、ご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

●東証二部へ市場変更 更なる企業品質（価値）向上に向け、邁進してまいります

当社は、2015年5月21日（木）をもちまして、東京証券取引所 JASDAQ（ジャスダック）から同取引所市場第二部へ市場を変更いたしました。

これもひとえに、株主の皆様、お客様、お取引先の皆様をはじめとした多くの関係者の皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今後も皆様のご期待にお応えすべく、役職員一同、新たな決意のもと、更なる業容の拡大と企業品質の向上に努めてまいりますので、引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

IR 担当：髙山・黒川

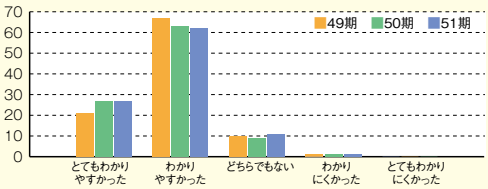
株主様アンケート結果のご報告

本誌「IR News」第51期事業のご報告において実施させていただきました、「株主様アンケート」では、皆様からのご回答ならびに貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
以下にアンケート結果の一部をご報告いたします。

▶アンケート回答結果

Q1. 当社の IR News の感想はいかがですか?

とてもわかりやすかった	27%
わかりやすかった	61%
どちらでもない	11%
わかりにくかった	1%
とてもわかりにくかった	0%



「とてもわかりやすかった」と「わかりやすかった」の合計が低下しており、内容やデザイン等を修正し、分かりやすい冊子の制作に努めてまいります。

Q2. 特に興味を持ったページはどこですか?（複数回答）

トップメッセージ	38%
特集	38%
財務ハイライト	27%
セグメント別事業状況	21%
トピックス	13%

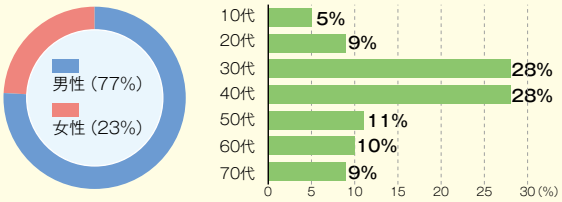
Q3. 今後、当社に何を期待しますか?（複数回答）

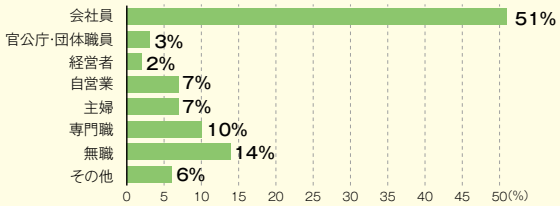
安定的な収益	46%
積極的な事業拡大	22%
株主への利益還元	46%
株主優待の実施	38%
工場見学（説明会）の実施	11%
その他	1%

Q4. 当社株式購入の理由は何ですか?（複数回答）

将来性・成長性	51%
安定性・業界トップシェア	30%
経営トップの考え	9%
商品開発力・技術力の高さ	20%
財務内容	11%
配当性向・配当利回り	28%
その他	3%

▶ご回答者様の属性等





Q5. 当社に対する不満はありますか?（複数回答）

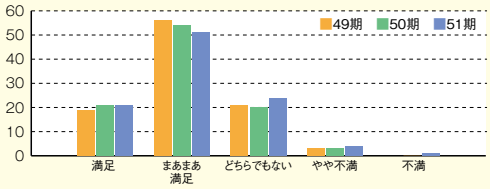
業績	9%
株価	16%
配当	14%
認知度	22%
出来高・流動性	7%
商品PR	7%
特にない	39%
その他	4%

Q6. 当社ホームページ、IR サイトについてご感想はいかがですか?

とても見やすい	12%
見やすい	48%
どちらでもない	18%
見にくい	1%
とても見にくい	0%
見たことが無い	21%

Q7. 当社の IR 活動についての評価を教えて下さい。

満足	21%
まあまあ満足	51%
どちらでもない	24%
やや不満	4%
不満	1%



過去3期間におけるアンケート調査結果をみると、「満足」と「やや満足」の合計は同水準で推移しております。引き続き皆様にご満足いただけるよう、IR活動の更なる向上を図ってまいります。

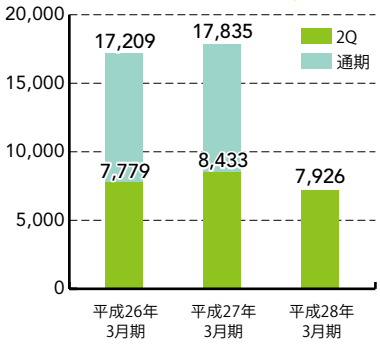
財務ハイライト

当社グループが関連する建設市場におきましては、前年第１四半期まで続いた消費増税に伴う駆込み需要の反動減、建設現場での人手不足による工期の遅れや太陽光関連市場の縮小等により商流に停滞感が生じたことから、当第２四半期連結累計期間の売上高は 7,926 百万円（前年同四半期比 6.0% 減）、経常利益は 513 百万円（同 25.5% 減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 328 百万円（同 26.0% 減）となり、減収減益となりました。

●売上高

前年同四半期比 6.0%減

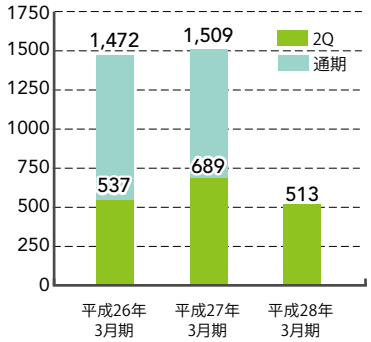
（単位：百万円）



●経常利益

前年同四半期比 25.5%減

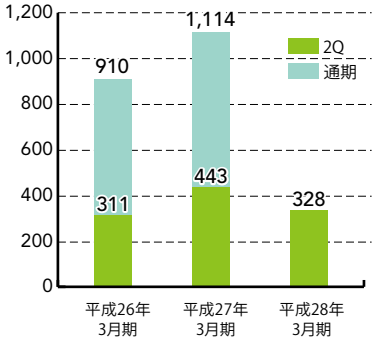
（単位：百万円）



●親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益

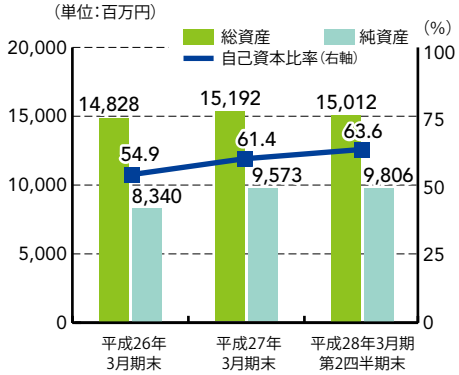
前年同四半期比 26.0%減

（単位：百万円）



●総資産・純資産／自己資本比率

（単位：百万円）



●連結損益計算書（要約）

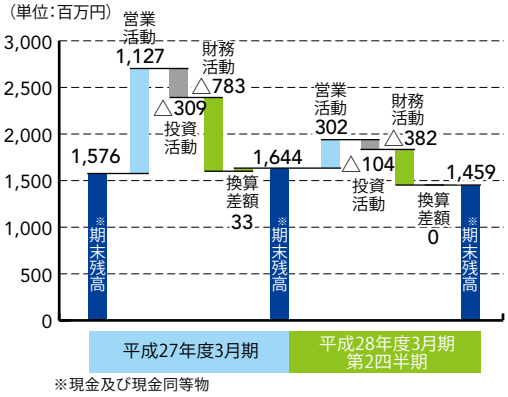
（当第2四半期連結累計期間：平成27年4月1日～平成27年9月30日 前第2四半期連結累計期間：平成26年4月1日～平成26年9月30日）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間	増 減
売 上 高	7,926	8,433	△6.0%
営 業 利 益	540	710	△24.0%
経 常 利 益	513	689	△25.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	328	443	△26.0%

●連結キャッシュフローの状況

（単位：百万円）



※現金及び現金同等物

●連結貸借対照表（要約）

（当第2四半期連結会計期間：平成27年9月30日現在 前連結会計年度：平成27年3月31日現在）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期連結会計期間	前連結会計年度	増 減
流 動 資 産	8,484	8,640	△1.8%
固 定 資 産	6,527	6,552	△0.4%
資 産 合 計	15,012	15,192	△1.2%
科 目	**当第2四半期連結会計期間**	**前連結会計年度**	**増 減**
流 動 負 債	3,339	3,610	△7.5%
固 定 負 債	1,866	2,008	△7.0%
純 資 産	9,806	9,573	2.4%
負債・純資産合計	15,012	15,192	△1.2%

セグメント別事業概況

当期より、当社グループは組織体制を従来の報告セグメント「ファスニング事業」、「リニューアル事業」、「センサー事業」の３区分から「ファスニング事業」、「機能材事業」の２区分へ変更しております。

旧セグメント（ファスニング事業、リニューアル事業、センサー事業の３セグメント）

ファスニング事業

●アンカー関連
金属系アンカー、接着系アンカー
その他のアンカー類
●ドリル関連
大口径・小口径ドリル、
アンカー施工工具、確認試験機
電動工具、電動油圧工具関連
●ファスナー関連
サイディング用・ルーフィング用ファスナー

リニューアル事業

●工事関連
太陽光関連、
建築関連（耐震補強工事）、
土木関連（一面耐震補強工事等）

●FRPシート関連
FRP シート

センサー事業

●センサー、
電子プリント基板関連
アルコール測定器
（据置きタイプ、携帯電話連動タイプ）
車両の表示板用や工事・
事故の表示板用等

新セグメント（ファスニング事業、機能材事業の２セグメント）

ファスニング事業

●アンカー関連
金属系アンカー、接着系アンカー
その他のアンカー類

●ドリル関連
大口径・小口径ドリル、
アンカー施工工具、確認試験機
電動工具

●ファスナー関連
サイディング用・ルーフィング用ファスナー

●工事関連
太陽光関連、建築関連（耐震補強工事）、
土木関連（一面耐震補強工事等）

機能材事業

●FRPシート関連
FRPシート

●センサー、電子プリント基板関連
アルコール測定器（据置きタイプ、携帯電話連動タイプ）
車両の表示板用や工事・事故の表示板用等

●電動油圧工具関連
鉄筋カッター、鉄筋ベンダー等

［注釈］
1. 旧リニューアル事業のFRPシート関連および、旧ファスニング事業の製品群に含まれているドリル・電動工具の一部（子会社㈱IKKが製造・販売する電動油圧工具）を機能材事業へ含める。
2. 旧リニューアル事業の工事関連は、ファスニング事業に関わる製品をもとに、当社独自の工法開発や工事管理に特化していることから、ファスニング事業へ含める。

ファスニング事業

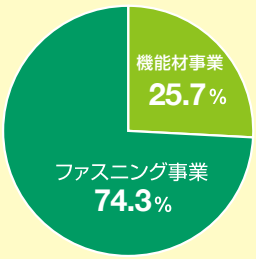
マンションや商業施設の需要が鈍化したほか、太陽光関連の市場縮小による影響を受け、主力製品である金属系・接着系あと施工アンカーの販売が低調に推移いたしました。

●売上高
5,885百万円

●セグメント利益
754百万円

セグメント別売上高構成

（平成28年第2四半期累計）



機能材事業

電動油圧工具関連は、円安の影響により海外販売は好調に推移いたしましたが、国内販売は伸び悩みました。また、電子基盤関連は好調に推移いたしましたが、FRP シート関連やアルコール測定器は前年とほぼ同水準となりました。

●売上高
2,041百万円

●セグメント利益
257百万円

免責事項　本資料の将来に係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。
実際の事業は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

会社概要

（平成27年9月30日現在）

商号	サンコーテクノ株式会社
設立	1964年5月15日
資本金	768百万円
社員数	315名（連結592名）
所在地	千葉県流山市南流山三丁目10番地16 TEL 04-7157-3535 FAX 04-7178-6661
取引銀行	みずほ銀行 りそな銀行 千葉銀行 京葉銀行
事業内容	建設資材（あと施工アンカー・ドリル・ファスナー等）、複合材、各種測定器の企画開発・製造・販売・施工及び輸出入

役員

代表取締役社長	洞下　英人
取締役副社長	佐藤　静男
常務取締役	洞下　正人
常務取締役	八谷　剛
常務取締役	上石　茂行
取締役	佐藤　靖
監査役	鈴木　英雄
監査役	松岡　省一
監査役	塙　善光

関連会社

連結子会社
株式会社IKK
SANKO FASTEM（THAILAND）LTD.
SANKO FASTEM（VIETNAM）LTD.
三幸商事顧問股份有限公司
株式会社スイコー
アイエスエム・インタナショナル株式会社

持分法適用関連会社 株式会社サンオー

持分法非適用関連会社 株式会社イーオプティマイズ

株式の状況

（平成27年9月30日現在）

発行可能株式総数 …… 34,000,000株
発行済株式の総数 …… 8,745,408株
株主数 …… 2,524名

大株主

当社への出資状況

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
洞下 英人	1,151	13.16
東京中小企業投資育成株式会社	720	8.23
有限会社サンワールド	680	7.77
サンコーテクノ社員持株会	397	4.54
日本トラスティサービス信託銀行株式会社	301	3.44
新井　栄	262	2.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	232	2.65
洞下 照夫	215	2.45
株式会社みずほ銀行	178	2.03
資産管理サービス信託銀行株式会社	169	1.93

（注）1.千株未満は切り捨てて表示しております。
2.当社は自己株式（606千株）を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

サンコーテクノ株式会社
〒270-0163　千葉県流山市南流山三丁目10番地16

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部(平成27年5月21日より)
証券コード	3435
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	3月31日
配当基準日	3月31日、9月30日（中間配当を行う場合）
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
公告の方法	電子公告により当社ホームページ（http://www.sanko-techno.co.jp/）に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をする事ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主優待制度の導入について

当社株式の投資魅力を高め、中長期にわたり多くの株主様に保有していただくことを目的として、株主優待を導入いたしました。毎年３月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された１単元（100株）以上保有されている株主様を対象として、500円分のQUOカード（クオカード）を年１回贈呈いたします。

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
みずほ信託銀行株式会社
連絡先 フリーダイヤル 0120 **0120-288-324**

お問い合せ先

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル　0120-288-324 （土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続きお取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取り扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります）	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C020493 www.fsc.org
この印刷物は、FSC®の基準に従って認証され、適切に管理された森からの木材を含んだ用紙に、「植物油インキ」を使用して印刷しました。
VEGETABLE OIL INK
Made in Fukushima
この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。